



タテジマユムシと思われる生きものの口吻

泡瀬干潟を散策していると、砂の上で、ピンッとはったゴムがプツリと切れるように、砂にもぐる生きものが目撃される。何かと思って、あわてて近づくと、そこには砂しかない。

この生きものは、ユムシといって、分類的にはユムシ動物門キタユムシ目キタユムシ科に属する。本体は、砂の穴深くにいて、なかなか見ることはできないが、まるでミミズのようなものである。

泡瀬干潟の浅瀬で、よく見られるユムシであり、正式名称はタテジマユムシと思われる。泥の中に穴を掘ってすんでいる。

写真の個体は胴体ではなくて、約2cmほどの吻（先の白い部分）を長く伸ばしている様子である。この吻を伸ばして、周囲の生物由来の有機物（デトリタス）を集めて食べている。干潟は、一見すると、何もいないようであるが、生きものの宝庫である。